

1 5 横武小学校防火・防災計画

1 事件・事故等への基本的な考え方

危機管理とは、事件・事故の発生に伴って生まれるダメージを軽減し、組織の維持を図るための経営方法である。それは、予防的対応と実際の事件・事故発生への対応とに大きく分けることができる。教育活動には、予測できない事故がつきまといている。しかし、事故を恐れていれば、教育活動は、萎縮してしまう。一方、学校現場に創意工夫を求める声は高い。従って、事件・事故の発生が予測される場合には、速やかにその危機要素を取り除くか、改善すべきであり、それをいち早く発見することが求められる。

2 危機管理組織

(1) 火災予防管理組織

- ① 自営消防本部は、運動場東側に設置し、本部長は校長がその任に当たる。
- ② 通報連絡
 - ・火災等異常を発見した場合、職員室に連絡すると共に消防・警察署に連絡する。
 - ・通報連絡員は、放送設備の利用・ベル・連呼によって緊急連絡する。
 - ・人命の誘導を第一とし、誘導後直ちに初期消火係員は、火災発生場所に急行し、消火器などを使用し延焼拡大防止の消化活動に当たる。
- ③ 予防管理組織は、火気予防のための組織と自主点検組織とし、平素における火災予防及び、地震時の出火防止を図るため、防火管理者のもとに普通教室、特別教室ごとに火気責任者を置く。又、人的災害予防の為の死角となる場所をチェックする。

1年教室	担任	3年教室	担任	5年教室	担任	あおぞら	担任
2年教室	担任	4年教室	担任	6年教室	担任	ひまわり	担任
校長室	校長	理科室	教科主任	図工室	教科主任	更衣室	養護
職員室	教頭	家庭科室	教科主任	図書室	教科主任	教具室	主幹
印刷室と湯沸室	事務	給食室	調理員	外倉庫	教頭	機械室	校長
						体育館	教科主任
保健室	養護	放送室	事務	音楽室	教科主任	体育館倉庫	教科主任

(2) 災害時の任務内容

係名	氏名	火災・災害時	自然災害 (集中豪雨・積雪・地震)時	人的災害時
隊長	校長	総指揮を執る	左同	左同
指揮者	教頭	自営消防隊の指揮及び隊長の補佐	左同	左同
連絡通報	教頭 主幹教諭	消防機関への連絡及び確認 校内の報知及び状況の把握	強風・洪水・地震等の よびかけ 校内の報知情報収集	警察消防署への連絡 校内の報知情報収集
避難誘導	各担任	児童の安全な避難誘導とその管理 (地震時は一時待機) 消防車到着時の事故防止	児童の安全措置及び安全 道路の確認と誘導 下校時の安全誘導	児童の安全措置及び避難 の誘導 救急車到着時の安全
防護安全	調理員	使用中の電気、ガス、危険物等の 安全措置	火気使用器具の始末 左同	危険物等の収納始末
初期行動	教頭 主幹教諭	火災の初期消火 非常時持ち出し搬出・管理	校舎内外の施設・設備 物品等の点検と始末	一斉避難が不適な場合の 措置

	事務主幹			
その他	教頭 主幹教諭	緊急連絡先の確認	登校前自宅待機等の措置 緊急連絡の確認	来校者への声かけ 言動と用事の見極め
応急救護	養護教諭	負傷者の応急措置	左同	左同

3 未然防止に向けた取り組み

(1) 自主検査の任務

- ① 自主点検は火気責任者が随時行う。
 - ・火気使用設備器具 ・危険物施設 ・電気設備 ・消火器
 - ・自動火災報知設備 ・非常警報設備 ・避難器具
- ② 廊下・階段の避難の上で障害となる物品の有無。危険物の収納・撤去。

(2) 学級担任は、児童に対してその基本的事項について、学級活動等で予防・防災教育をする

- ① 火災及び地震等人・自然災害等の基礎知識と避難方法及び避難訓練の重要性
- ② 学校周辺の地理的状況と風水害による通学路及び待機等の安全確認について

(3) 避難訓練の実施に当たっては、各担当で具体的な計画を立案し実施する

		火 災	地 震	不 審 者
難時間		授業中	授業中	休憩中
避難方法		ベル及び放送	ベル及び放送	ベル及び放送
想定場所		理科室・家庭科室より出火	地震発生	不審者侵入
重点事項		落ち着いて静かに避難する	地震における基本行動の徹底	避難を的確に判断し行動する
児童 に 対 す る 指 導 内 容	事 前 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の恐ろしさを知る ・避難方法を知る ・煙の恐ろしさについて知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・身を守る方法について考え、体で覚える ・机下に隠れる訳を話し合う ・地震災害の知識を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の内外にいたときの行動のありかたについて知る ・予想される危険と行動について話し合う
	訓 練 時 の 行 動	<ul style="list-style-type: none"> ・口を結び、ハンカチを用意する ・落ち着いて放送を聞く ・避難時は、「お・は・し・も」をキーワードに押さない・走らない・しゃべらない・もどらないを守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・口を結び、先生の指示を聞く ・落ち着いて、素早く机の下に入る ・振動がなくなった時点で先生の指示に従い校庭に避難する 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内の教室、廊下・便所等にいる児童は先生の指示により、その場から安全な場所へ避難を行う ・校舎外にいる児童は鉄棒のところに集合し、指示を待つ
留 意 事 項	学 級 担 任	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を確認、出席簿を持参し誘導する ・児童を落ち着かせ列を乱さないよう注意し事故防止に留意する 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて状況を把握し、児童に対して初動措置を指示 ・校庭に誘導する場合は、児童に異常のないかを確認後行う ・海岸にいた場合や津波の場合は、高いところへ避難 ・事故防止に留意 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の教室に直行し、隣接教室の担任不在のときは、併せて指示を行い、安全な場所へ避難誘導を行う ・校庭では、児童を把握するとともに、人員点呼を行う ・事故防止に留意

その 他の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・他の係員は任務分担に従い各階を見回り、逃げ遅れの児童の救出及び初期消火に当たる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各係員は、定められた階に児童がいないか、出火倒壊等を確認し本部に連絡を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に外来者へは、声をかける ・通用口は一箇所にする
避難場所	運 動 場		適宜判断

(4) 避難訓練計画 別紙